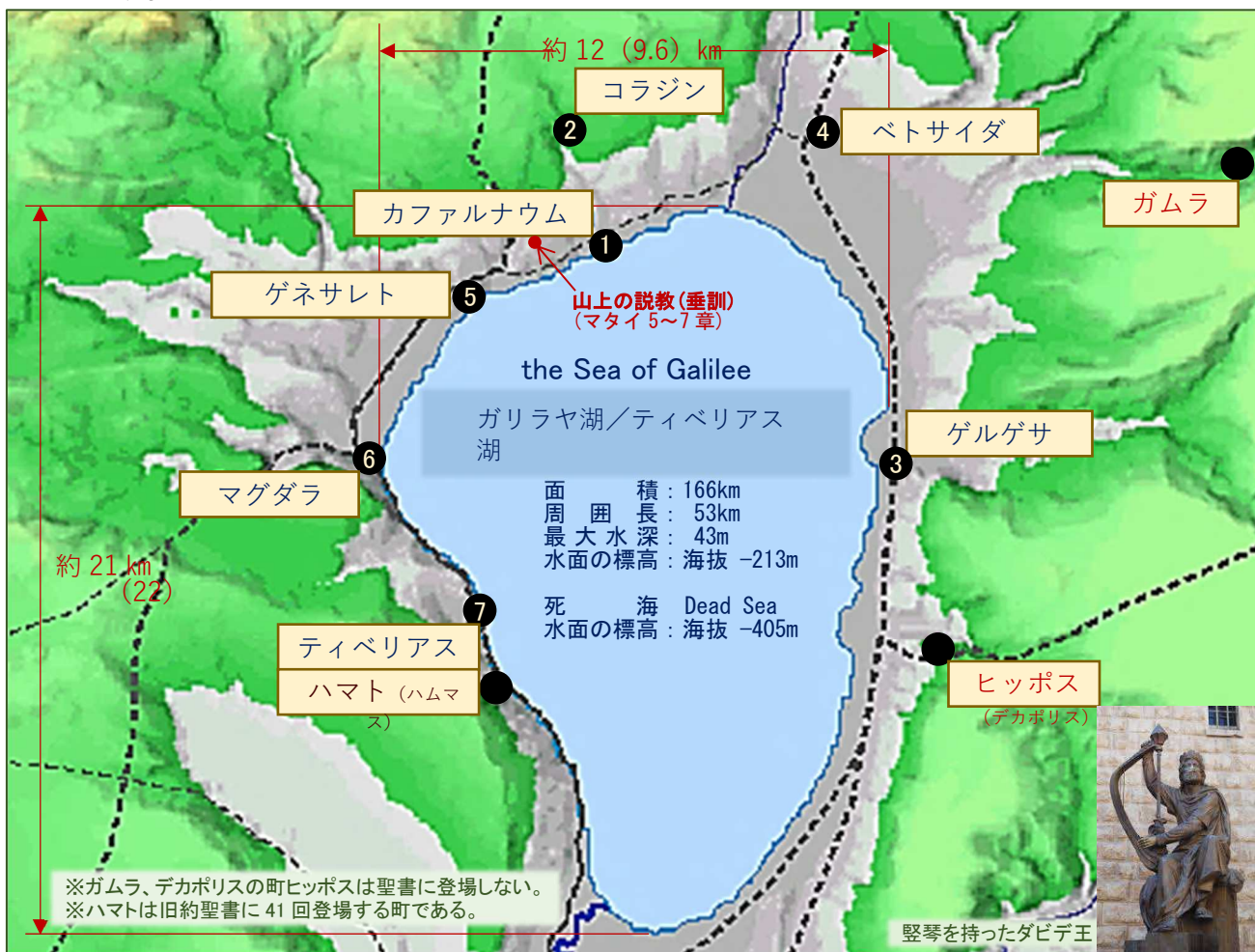


ガリラヤ湖畔 周辺の町



湖の形が「竖琴」に似ていることから、ヘブライ語で「竖琴」を意味する

「キノール」に由来して「キネレット」とも呼ばれています。

旧約聖書ではキネレット湖（民数記 34：11、申命記 3：17、ヨシュア記 12：3、13：27）として登場する（最新の聖書協会共同訳では「キネレット(の海)」となっている）。

❶カファルナウム（Capernaum=別表記：カペナウム=慰めの村、エジプトとシリアを結ぶ主要な貿易ルートでイエスの宣教の本拠地、漁業の町）

▶マタイによる福音書

04:12 **ガリラヤで伝道始める** イエスは、(洗礼者)ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた。(04:13)そして、(育った)ナザレを離れ、ゼブルン(=ナザレ)とナフタリ(=カファルナウム)の地方にある湖畔の町カファルナウムに来て住まわれた。

08:05 **百人隊長の僕をいやす** さて、イエスがカファルナウムに入られると、一人の百人隊長が近づいて来て懇願し、(08:06)「主よ、わたしの僕が中風で家に寝込んで、ひどく苦しんでいます」と言った。

11:23 **悔い改めない町を叱る** また、カファルナウム、お前は、/天にまで上げられるとも思っているのか。陰府にまで落とされるのだ。お前のところでなされた奇跡が、ソドムで行われていれば、あの町は今日まで無事だったにちがいない。

→神はソドムの町の人々が非常に不道徳であったために滅ぼした。ソドムの場所は不明だが、死海の南東部とされている。

17:24 **神殿税を納める** 一行がカファルナウムに来たとき、神殿税を集める者たちがペトロのところに来て、「あなたたちの先生は神殿税を納めないのか」と言った。

→神殿税は律法によって義務付けられていた（出エジプト記 30 : 11~16、38 : 26）。税は半シケル（＝2 デナリオン）で労働者の二日分の平均的な賃金に相当した。イエスの時代、カファルナウムは強制的に税金を集めるローマ兵の拠点地だった。

→1 シケル＝4 デナリオン（ローマ銀貨、1 デナリオン＝一日の賃金に相当）＝4 ドラクメ（ギリシア銀貨）

▶マルコによる福音書

01:21 **汚れた霊に取りつかれた男をいやす** 一行はカファルナウムに着いた。イエスは、安息日に会堂に入って教え始められた。

02:01 **中風の人をやす** 数日後、イエスが再びカファルナウムに来られると、（シモン・ペトロの）家におられることが知れ渡り、(02:02) 大勢の人が集まったので、戸口の辺りまですきまもないほどになった。イエスが御言葉を語っておられると、(02:03) 四人の男が中風の人を運んで来た。

09:33 **いちばん偉い者** 一行はカファルナウムに来た。家に着いてから、イエスは弟子たちに、「途中で何を議論していたのか」とお尋ねになった。(09 : 34) 彼らは黙っていた。途中でだれがいちばん偉いかと議論し合っていたからである。

▶ルカによる福音書

04:23 **ナザレで受け入れられない** イエスは言われた。「きっと、あなたがたは、『医者よ、自分自身を治せ』（→Physician, heal thy self、ルカだけの表記）ということわざを引いて、『カファルナウムでいろいろなことをしたと聞いたが、郷里のここでもしてくれ』と言うにちがいない。」

→そこで、イエスは言われました。「きっとあなたがたは、『医者よ、自分を治せ』ということわざを引いて、『カペナウムで行った奇跡を、自分の郷里でもしてくれ』と言うのでしょうか（リビング・バイブル:LB）。

04:31 **汚れた霊に取りつかれた男をいやす** イエスはガリラヤの町カファルナウムに下って、安息日には人々を教えておられた。

07:01 **百人隊長の僕をいやす** イエスは、民衆にこれらの言葉をすべて話し終えてから、カファルナウムに入られた。→百人隊長の僕をいやす（7 : 1~10、マタイによる福音書 8 : 5~13、ヨハネによる福音書 4 : 43~54）

10:15 **悔い改めない町を叱る** また、カファルナウム、お前は、／天にまで上げられるとでも思っているのか。陰府にまで落とされるのだ。

▶ヨハネによる福音書

02:12 **神殿から商人を追い出す** この後、イエスは母、兄弟、弟子たちとカファルナウムに下って行き、そこに幾日か滞在された。

04:46 **役人の息子をいやす** イエスは、再びガリラヤのカナに行かれた。そこは、前にイエスが水をぶどう酒に変えられた所である。さて、カファルナウムに王の役人がいて、その息子が病気であった。(04:47) この人は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞き、イエスのもとに行き、カファルナウムまで下って来て息子をいやすしてくださるよう頼んだ。息子が死にかかっていたからである。

06:17 **湖の上を歩く** そして、舟に乗り、湖の向こう岸のカファルナウムに行こうとした。既に暗くなっていたが、イエスはまだ彼らのところには来ておられなかった。

06:24 **イエスは命のパン** 群衆は、イエスも弟子たちもそこにはないと知ると、自分たちもそれらの小舟に乗り、イエスを捜し求めてカファルナウムに来た。

06:59 **イエスは命のパン** これらは、イエスがカファルナウムの会堂で教えていたときに話されたことである。

②**コラジン**（ユダヤ人の町、コラジンの人々は、イエス・キリストを通してなされた奇跡的な働きを体験し、また福音に接したが、真の信仰には至らなかった。）

▶マタイによる福音書

11:21 **悔い改めない町を叱る** 「コラジン、お前は不幸だ。ベトサイダ、お前は不幸だ。お前たちのところで行われた奇跡が、ティルスやシドンで行われていれば、これらの町はとうの昔に粗布をまとい、灰を

かぶって悔い改めたにちがいない。

→コラジンと同じく、ベトサイダ③もユダヤ人の町、ティルスやシドンはフェニキア人の重要な町。ユダヤ人はしばしばイエスの言葉や奇跡に応じようとしなかったため、ティルスやシドンに住む異邦の方が神に立ち帰る心があるとイエスは言っている。

→粗布はラクダと山羊の毛で出来た暗い色の服（黙示録6：12）で、深い悲しみにある時や、自分自身の罪を悔いるのを示すためにこの粗布をまとい頭に灰（ギリシア語は煤 - すすの一種を表わす）をかぶった（エズラ記4：1、3、ヨブ記2：8）。

▶ルカによる福音書

10:13 悔い改めない町を叱る 「コラジン、お前は不幸だ。ベトサイダ、お前は不幸だ。お前たちのところでなされた奇跡がティルスやシドンで行われていれば、これらの町はとうの昔に粗布をまとい、灰の中に座って悔い改めたにちがいない。

③ゲルゲサ？→ゲラサ（デカポリスの町の一つ、ゲルゲサ、ゲラサ、ガダラとなっている写本がある）

→【参考】デカポリス

▶マルコによる福音書

05:01 悪霊に取りつかれたゲラサの人をいやす 一行は、湖の向こう岸にあるゲラサ人の地方に着いた。

▶ルカによる福音書

08:26 悪霊に取りつかれたゲラサの人をいやす 一行は、ガリラヤの向こう岸にあるゲラサ人の地方に着いた。

08:37 悪霊に取りつかれたゲラサの人をいやす そこで、ゲラサ地方の人々は皆、自分たちのところから出て行ってもらいたいと、イエスに願った。彼らはすっかり恐れに取りつかれていたのである。そこで、イエスは舟に乗って帰ろうとされた。

▶マタイによる福音書

08:28 悪霊に取りつかれたガダラの人をいやす イエスが向こう岸のガダラ人の地方に着かれると、悪霊に取りつかれた者が二人、墓場から出てイエスのところにやって来た。二人は非常に狂暴で、だれもその辺りの道を通れないほどであった。

→ガダラは、住民の大半がギリシア人で、建物や生活様式もおおむねギリシア風であった。

08:29～34

突然、彼らは叫んだ。「神の子、かまわないでくれ。まだ、その時ではないのにここに来て、我々を苦しめるのか。」はるかかなたで多くの豚の群れがえさをあさっていた。そこで、悪霊どもはイエスに、「我々を追い出すのなら、あの豚の中にやってくれ」と願った。イエスが、「行け」と言われると、悪霊どもは二人から出て、豚の中に入った。すると、豚の群れはみな崖を下って湖になだれ込み、水の中で死んだ。豚飼いたちは逃げ出し、町に行って、悪霊に取りつかれた者のことなど一切を知らせた。すると、町中の者がイエスに会おうとしてやって来た。そして、イエスを見ると、その地方から出て行ってもらいたいと言った。

→マルコによる福音書5：13→マルコによる福音書05：01～20、ゲラサ人（ガダラ人ではない）

イエスがお許しになったので、汚れた霊どもは出て、豚の中に入った。すると、二千匹ほどの豚の群れが崖を下って湖になだれ込み、湖の中で次々とおぼれ死んだ。

→ルカによる福音書8：33→ルカによる福音書08：22～25 ゲラサ人（ガダラ人ではない）

悪霊どもはその人から出て、豚の中に入った。すると、豚の群れは崖を下って湖になだれ込み、おぼれ死んだ。

→「ガダラ」にも言えることだが、「ゲラサ」も、ガリラヤ湖からかなり離れており、上記聖句には地理的に見ると無理があり、「ゲルゲサ」の地が正しいと思われる。→【参考】デカポリス



④ベトサイダ（ユダヤ人の漁師町）

▶マタイによる福音書

11:21 **悔い改めない町を叱る** 「コラジン、お前は不幸だ。ベトサイダ、お前は不幸だ。お前たちのところで行われた奇跡が、ティルスやシドンで行われていれば、これらの町はとうの昔に粗布をまとい、灰をかぶって悔い改めたにちがいない。

▶マルコによる福音書

06:45 **湖の上を歩く** それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸のベトサイダへ先に行かせ、その間に御自分は群衆を解散させられた（→それからすぐ、イエスは弟子たちに、舟に戻り、先にベツサイダまで行くようにお命じになりました。あとで弟子たちと落ち合うつもりで、イエスだけその場に残り、群衆を解散させられたのです：LB）。

08:22 **ベトサイダで盲人をいやす** 一行はベトサイダに着いた。人々が一人の盲人をイエスのところに連れて来て、触れていただきたいと願った。

▶ルカによる福音書

09:10 **五千人に食べ物を与える** 使徒たちは帰って来て、自分たちの行ったことをみなイエスに告げた。イエスは彼らを連れ、自分たちだけでベトサイダという町に退かれた。

10:13 **悔い改めない町を叱る** 「コラジン、お前は不幸だ。ベトサイダ、お前は不幸だ。お前たちのところでなされた奇跡がティルスやシドンで行われていれば、これらの町はとうの昔に粗布をまとい、灰の中に座って悔い改めたにちがいない。

▶ヨハネによる福音書

01:44 **フィリポとナタナエル、弟子となる** フィリポは、アンデレとペトロの町、ベトサイダの出身であった。

12:21 **ギリシア人、イエスに会いに来る** 彼らは、ガリラヤのベトサイダ出身のフィリポのもとへ来て、「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ。

⑤ゲネサレト

▶マルコによる福音書

06:53 **ゲネサレトで病人をいやす** こうして、一行は湖を渡り、ゲネサレトという土地（→平野の地）に着いて舟をつないだ。

▶ルカによる福音書

05:01 **漁師を弟子にする** イエスがゲネサレト湖畔に立っておられると、神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来た。

⑥マグダラ

▶マタイによる福音書

27:56 **イエスの死** その中には、①マグダラのマリア（→イエスに従う者として、イエスの親しい友人たちと一緒に旅をしたと思われる）、②ヤコブとヨセフの母マリア、③ゼベダイの子らの母がいた。

27:61 **墓に葬られる** マグダラのマリアともう一人のマリアとはそこに残り、墓の方を向いて座っていた。

28:01 **復活する** さて、安息日（→金曜日の日没～土曜日の日没）が終わって、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリアともう一人のマリアが、墓を見に行った。

▶マルコによる福音書

15:40 **イエスの死** また、婦人たちも遠くから見守っていた。その中には、①マグダラのマリア、②小ヤコブとヨセの母マリア、そして③サロメがいた。

15:47 **墓に葬られる** マグダラのマリアとヨセの母マリアとは、イエスの遺体を納めた場所を見つめていた。

16:01 **復活する** 安息日が終わると、①マグダラのマリア、②ヤコブの母マリア、③サロメは、イエスに

油を塗りに行くために香料（→没薬と沈香、ヨハネによる福音書 19：39）を買った。

16:09 **マグダラのマリアに現れる** 「イエスは週の初めの日の朝早く、復活して、まずマグダラのマリアに御自身を現された。このマリアは、以前イエスに七つの悪霊を追い出していただいた婦人である。

▶ルカによる福音書

08:02 **婦人たち、奉仕する** 悪霊を追い出して病気をいやしていただいた何人かの婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリア、

24:10 **復活する** それは、マグダラのマリア、ヨハナ（→ヘロデ・アンティパスの執事クザの妻）、ヤコブの母マリア（→ヤコブと母マリアについては誰であるかは不明）、そして一緒にいた他の婦人たちであった。婦人たちはこれらのことを使徒たちに話したが、

▶ヨハネによる福音書

19:25 **十字架につけられる** イエスの十字架のそばには、その①母と②母の姉妹、③クロパの妻マリアと④マグダラのマリアとが立っていた。

→①ギリシア語では3人とも解釈できる。「十字架のそばには①イエスの母が、②姉妹でクロパの母マリアと共に立っていた。③マグダラのマリアもいた。」

②あるいは2人とも解釈できる。「①イエスの母は、②姉妹であるクロパのマリア、つまりマグダラのマリアとそこに立っていた」。

20:01 **復活する** 週の初めの日、朝早く（→日曜日の早朝）、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。

20:18 **イエス、マグダラのマリアに現れる** マグダラのマリアは弟子たちのところへ行って、「わたしは主を見ました」と告げ、また、主から言われたことを伝えた。

⑦**ティベリアス**（AD25年頃、ヘロデ・アンティパスが皇帝ティベリアスを称えるために造ったガリラヤ湖西岸の町）

▶ルカによる福音書

03:01 **洗礼者ヨハネ、教えを宣べる** 皇帝ティベリウス（ティベリウス・ユリウス・カエサル、第2代ローマ皇帝、初代皇帝アウグストゥスの養子で、養子となる以前の名前は実父と同じティベリアス・クラウディウス・ネロ）の治世（在世：AD14～37年）の第十五年（→AD28/29年）、ポンティオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデ（→ヘロデ大王の息子、ヘロデ・アンティパス、在位：BC4年～AD39年）がガリラヤの領主、その兄弟フィリポがイトラヤとトラコン地方の領主、リサニアがアビレネの領主、

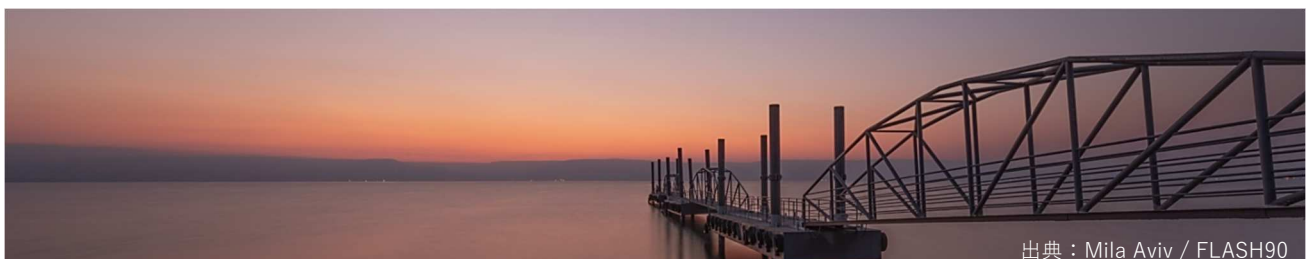
▶ヨハネによる福音書

06:01 **五千人に食べ物を与える** その後、イエスはガリラヤ湖、すなわちティベリアス湖の向こう岸（→ベトサイダ）に渡られた。

→ローマ人はローマ皇帝ティベリアスにちなんでティベリアス湖と呼んだ（ヨハネによる福音書 21:1）。

06:23 **イエスは命のパン** ところが、ほかの小舟が数そうティベリアスから、主が感謝の祈りを唱えられた後に人々がパンを食べた場所へ近づいて来た。

21:01 **イエス、七人の弟子に現れる** その後、イエスはティベリアス湖畔で、また弟子たちに御自身を現された。その次第はこうである。



●ガリラヤ(ティベリアス湖、ゲネサレト湖)が含まれている 34 聖句(抜粋)

→ガリラヤはパレスチナ北部、ヨルダン川とガリラヤ湖の西に位置し、この地域はイスラエル王国の北部に当たり、アッシリア帝国が征服した (BC722 年)。後にバビロニア、ペルシア、ギリシア、シリアの支配を受けた。ローマ人がこの地域を帝国の一部に組み入れ (BC63 年)、当時はヘロデ大王の息子ヘロデ・アンティパスが支配していた。

▶マタイによる福音書

03:13 **イエス、洗礼を受ける** そのとき、イエスが、ガリラヤ (のナザレ) からヨルダン川のヨハネのところへ来られた。彼から洗礼を受けるためである。

04:18 **四人の漁師を弟子にする** イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。

04:23 **おびただしい病人をいやす** イエスはガリラヤ中を回って、諸会堂 (→ユダヤ人の集会所) で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされた。

04:25 **おびただしい病人をいやす** こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、ヨルダン川の向こう側から、大勢の群衆が来てイエスに従った。

17:22 **再び自分の死と復活を予告する** 一行がガリラヤに集まったとき、イエスは言われた。「人の子は人々の手に引き渡されようとしている。

21:11 **エルサレムに迎えられる** そこで群衆は、「この方は、ガリラヤのナザレから出た預言者イエスだ」と言った。

26:32 **ペトロの離反を予告する** しかし、わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤへ行く。」

27:55 **イエスの死** またそこでは、大勢の婦人たちが遠くから見守っていた。この婦人たちは、ガリラヤからイエスに従って来て世話をしていた人々である。

28:07 **復活する** それから、急いで行って弟子たちにこう告げなさい。『あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。』確かに、あなたがたに伝えました。」

28:10 **復活する** イエスは言われた。「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。」

28:16 **弟子たちを派遣する** さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。

▶マルコによる福音書

01:09 **洗礼者ヨハネ、教えを宣べる** そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。

01:16 **ガリラヤで伝道始める** イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。

01:28 **汚れた霊に取りつかれた男をいやす** イエスの評判は、たちまちガリラヤ地方の隅々にまで広まった。

01:39 **巡回して宣教する** そして、ガリラヤ中の会堂に行き、宣教し、悪霊を追い出された。

03:07 **手の萎えた人をいやす** イエスは弟子たちと共に湖の方へ立ち去られた。ガリラヤから来たおびただしい群衆が従った。また、ユダヤ、

07:31 **耳が聞こえず下の回らない人をいやす** それからまた、イエスはティルスの方を去り、シドン (→現在のレバノンがあるパレスチナ北部の地中海に面した港町) を経てデカポリス地方を通り抜け、ガリラヤ湖へやって来られた。

09:30 **再び自分の死と復活を予告する** 一行はそこを去って、ガリラヤを通って行った。しかし、イエスは人に気づかれるのを好まれなかった。

14:28 **ペトロの離反を予告する** しかし、わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤへ行く。」

15:41 **イエスの死** この婦人たちは、イエスがガリラヤにおられたとき、イエスに従って来て世話をしていた人々である。なおそのほかにも、イエスと共にエルサレムへ上って来た婦人たちが大勢いた。

16:07 **復活する** さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおりに、そこでお目にかかれる』と。」

▶ルカによる福音書

01:26 **イエスの誕生が予告される** 六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。

02:39 **ナザレに帰る** 親子は主の律法で定められたことをみな終えたので、自分たちの町であるガリラヤのナザレに帰った。

04:14 **ガリラヤで伝道始める** イエスは“霊”の力に満ちてガリラヤに帰られた。その評判が周りの地方一帯に広まった。

05:01 **漁師を弟子にする** イエスがゲネサレト湖（→ガリラヤ湖の別称で、ローマ人は皇帝の名にちなんでティベリアス湖と呼んだ）畔に立っておられると、神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来た。

05:17 **中風の人をいやす** ある日のこと、イエスが教えておられると、ファリサイ派の人々と律法の教師たちがそこに座っていた。この人々は、ガリラヤとユダヤのすべての村、そしてエルサレムから来たのである。主の力が働いて、イエスは病気をいやしておられた。

→ファリサイ派の名称は、「分離する者」「清い者」を意味するヘブライ語に由来し、律法を遵守することを強調した。律法の教師たちはモーセ五書（創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）を研究する学者であり、ファリサイ派同様、神のみが罪を赦すことができると信じていた。

▶ヨハネによる福音書

02:01 **カナでの婚礼** 三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があつて、イエスの母（→母マリアはカナの南約16 kmにあるナザレで暮らしていた）がそこにいた。

02:11 **カナでの婚礼** イエスは、この最初のしるし（→セメイオン＝奇跡、ギリシア語）をガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

04:45 **役人の息子をいやす** ガリラヤにお着きになると、ガリラヤの人たちはイエスを歓迎した。彼らも祭りに行ったので、そのときエルサレムでイエスがなさったことをすべて、見ていたからである。

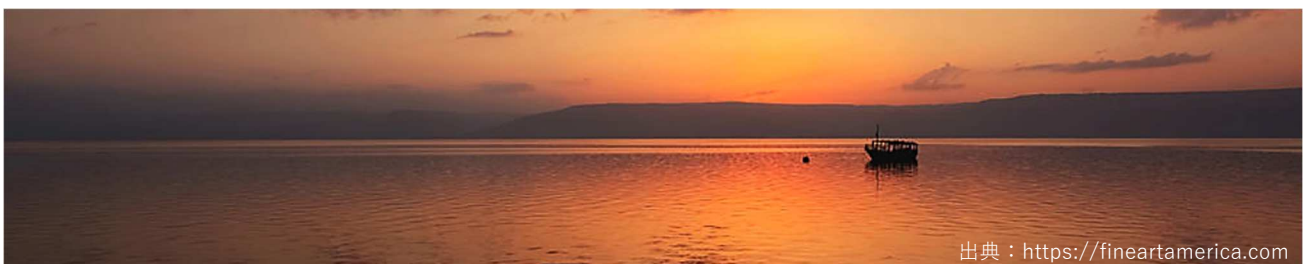
04:54 **役人の息子をいやす** これは、イエスがユダヤからガリラヤに来てなされた、二回目のしるし（→セメイオン＝奇跡、ギリシア語）である。

06:01 **五千人に食べ物を与える** その後、イエスはガリラヤ湖、すなわちティベリアス湖の向こう岸に渡られた。

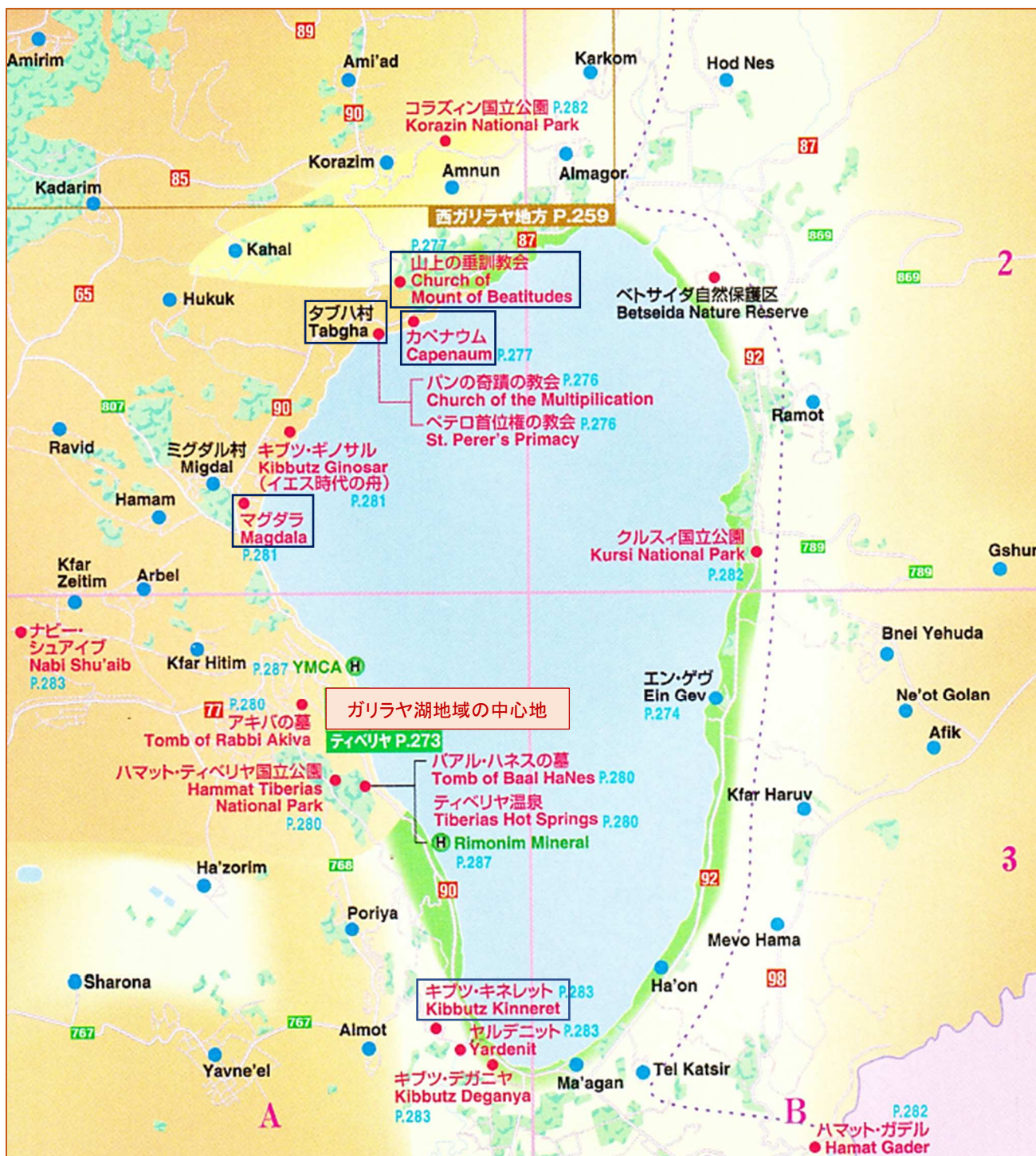
07:01 **イエスの兄弟たちの不信仰** その後、イエスはガリラヤを巡っておられた。（最高法院に属する議員である）ユダヤ人が（イエスを）殺そうとねらっていたので、ユダヤを巡ろうとは思われなかった。

21:01 その後、イエスはティベリアス湖畔で、また弟子たちに御自身を現された。その次第はこうである。

21:02 **イエス、七人の弟子に現れる** シモン・ペトロ、ディディモ（→双子）と呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼバダイの子たち（→ヨハネの名前を出すのを避けている）、それに、ほかの二人の弟子が一緒にいた。



現在のガリラヤ湖畔 周辺地図



出典：地球の歩き方 2015～16「イスラエル」P.275(ダイヤモンド社/ダイヤモンド・ビッグ社) 一部加工

【参考】キブツ(KIBBUTZ)

1909年帝政ロシアの迫害から逃れたユダヤ人たちが、ガリラヤ湖畔に共同体を作り、暮らし始めたことが最初である。彼らは国家建設を夢みて、①生産的自力労働、②集団責任、③身分の平等、④機会均等という4大原則に基づく集団生活を行い、土地を開墾し、灌漑設備を作り、やがて農業が安定してくると、学校や図書館、診療所もつくった。また農業以外に、観光業を発展させ、工場をつくり、自治体としての役割も担うようにした。ロシアのコルホーズ、中国の人民公社が集団農場を展開したが、キブツほど自発的で成功した例はない。

【参考】琵琶湖

面積 669.26 km²、周囲長 241km、最大水深 104.1m、平均水深 41.2m、水面の標高 84.371m



【参考】デカポリス(Decapolis)

新約聖書「マタイによる福音書 4 : 25」と「マルコによる福音書 5 : 20、7 : 31」に登場するパレスチナにおけるギリシアの 10 の植民地の町の総称である。

「10」を意味する「deca デカ」と「町」を意味する「polis ポリス」、つまり「10 の町」という意味である。

サマリアとガリラヤの東にある異邦人の 10 の都市連合で、これらの都市の建物はアレキサンダー（アレキサンドロス 3 世）大王に征服された後にギリシア建築に倣って設計され、おのおのの都市は典型的なギリシア都市のようであった（BC4 世紀後半）。これらの都市の住民は異邦人が多く、生活様式もギリシア風であった。

デカポリスの諸都市はそれぞれ議会を持ち、その周辺地域を支配、貨幣鑄造権、裁判権、暦に関する権限を持っていた。またゲラサやフィラデルフィヤの発掘で知られるように、円柱のある幅広い街路、円形広場、神殿、野外劇場などがあった。

また、東方におけるギリシア都市として、ギリシア語を話す移民の者たちを多く引き付け、アラム語文化圏の中におけるヘレニズム文化の中心になっていた。

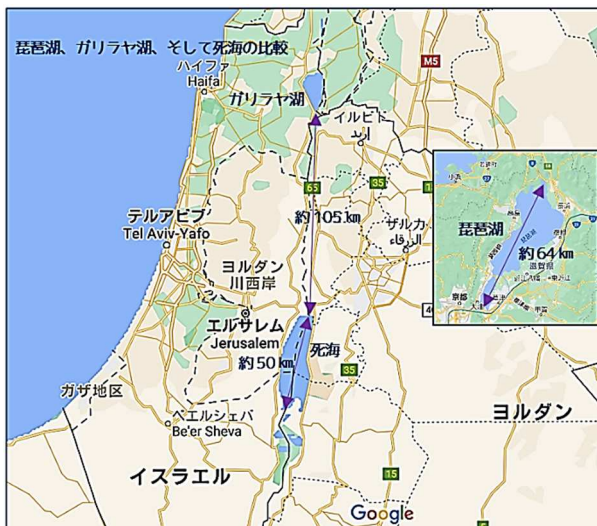
タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 3 / 聖句等の総数 33250 <デカポリス>3個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : デカポリス]
S マタイによる福音書	4:25 こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、ヨルダン川の向こう側から、大勢の群衆が来てイエスに従った。	
S マルコによる福音書	5:20 その人は立ち去り、イエスが自分にしてくださったことをことごとくデカポリス地方に言い広め始めた。人々は皆驚いた。	
S マルコによる福音書	7:31 それからまた、イエスはティルスの方角を去り、シドンを経てデカポリス地方を通り抜け、ガリラヤ湖へやって来られた。	

デカポリスの町は、**①ガダラ**、**②カナタ**、**③ゲラサ**、**④スキトポリス**、**⑤ダマスコ**、**⑥ディオン**、**⑦ヒッポス**、**⑧フィラデルフィア**、**⑨ペラ**、**⑩ラファナの町々**である。

これらは、アレキサンドロス 3 世（大王）の後継者たちによって建てられた。うち**⑤ダマスコ**だけは北方に離れて位置し、ヘレニズム以前からの古い歴史を持つ。



※図はウィキメディア・コモンズ「[デカポリス](#)」を一部加工しています。



ティベリウス→ティベリアス: 2022.01.05

